

津幡町の神社と祭神の分析 倶利伽羅谷編

宮本眞晴¹

河北潟湖沼研究所河北潟歴史委員会²
〒920-0267 石川県内灘町大清台302

要約： 津幡町にある5つの谷のうち「倶利伽羅谷」について、その流域の14の神社について調査をおこなった。それぞれの神社の沿革や祭神についての調査記録をまとめた。

キーワード： 津幡町，倶利伽羅谷，神社，祭神

はじめに

津幡町には、南より萩坂谷，倶利伽羅谷，笠谷，種谷，河合谷と5つの谷がある。前回の萩坂谷に続き、今回は倶利伽羅谷の神社について考察する。

「倶利伽羅」という日本語離れした言葉は何を意味するのであろうか。

角川書店「新版 古語辞典」で「倶梨迦羅」を引くと、

名詞《仏》 梵語の音訳。黒色の龍の意

火災につつまれて岩の上に直立した宝剣に黒龍が巻きついて、剣を飲むさまを描いたもの。宝剣は不動明王が右手の持つ降魔の剣、龍は左手の縛の索（なわ）を示す。

「倶梨迦羅不動明王」に同じ。

とある。

もう少しわかりやすくと思い、自由国民社1985年6月1日発行「故事名言・由来・ことわざ総解説」で「倶利伽羅紋々」を引くと「倶利伽羅は、不動明王のひとつのすがたで、剣にまつわりついている竜王の形で表している。「倶利伽羅大龍勝外道伏陀羅尼經」という長い名の経典にある話。あるとき、不動さんが知達という外道（げどう）と天の知勝城で法論を闘わせた。不動はそのとき知恵の象徴である智火（ちか）の剣に変じたところ、外道もすぐに、智火

の剣となって応じた。そこで、不動は間髪を入れず倶利伽羅大龍となり、龍水を注いで智火の焰を消してしまったので、外道は不動に降参したという。倶利伽羅紋々は、この智剣にまつわる龍の形を、背から足にかけて刺青（いれずみ）したのをいい、現在ではまた、背中や四肢にいっぱい刺青していることをいう。」とある。

[註]「倶利伽羅」の「り」は「梨」であったり、「か」は寺の山号の場合は「迦」になったりする。

倶利伽羅谷の神社・集落・祭神・沿革

以下に支川流域ごとに神社を整理して、それぞれの集落、祭神、沿革について述べる。神社名、祭神は原則として石川県神社誌に拠った。また、(江)として、江戸期の各村の産物も記した。

〔津幡川流域〕

1. 八幡（はちまん）神社（東荒屋）

旧村社。応神（おうじん）天皇・神功（じんぐう）皇后・仲哀（ちゅうあい）天皇・大

1 現 津幡町議会議員

2 連絡先 tel.076(288)2409 fax.076(288)2962



写真1 貴船神社(2)の五輪塔群



写真2 白山神社(4)の五輪塔群

山咋(おおやまくい)神。

創立年代不詳。明治6年村社に列す。同21年9月八幡社を現社名に改称。同40年6月同字三王社(山王社?)を合併。

鳥居から拝殿まで両側に杉の大木が並んでいるが、左側御神木の杉の大木の根元に五輪塔が数基ある。

(江)荒屋村。木蠟・綿・蚕繭・菜種。
明治17年東荒屋村に。

2. 貴船(きふね)神社(七野) (写真1)

旧村社。闇?神(くらおかみのかみ)・罔象女神(みずはのめのかみ)。

創立年代不詳。明治6年村社に列す。

この神社の狛犬は、社殿に向かって右が吽形、左が阿形と逆。竹橋・俱利伽羅神社、表舟橋・藤原神社、裏舟橋・八幡神社などがやはり逆。社殿右手前に10基ほどの五輪塔が整然と並んでいる。

(江)七野村。木蠟・綿・蚕繭・菜種。

3. 俱利伽羅神社(竹橋)

旧村社。天照皇大御神(あまてらすすめおおみかみ)・伊弉諾命(いざなぎのみこと)・木花開耶姫命(このはなさくやひめ)。(以上神社誌。以下町史、河北郡誌記載)火結命(ほのむすびのみこと)・罔象女神(みず

はのめのみこと)・埴山比咩命(はにやまひめのみこと)・菊理比売命(くくりひめのみこと)・天満大神(てんまのおおかみ)・警田別命(ほんだわけのみこと)。

創立年代不詳。もと小白社と称す。明治40年無格社富士社、同河内社を合併。同42年に山森の村社・白山社、上藤又の村社・藤又神社を合併して現社名に改称。同年さらに下中の村社・菅原神社を合併。社地は同年に集落西方の堂ヶ谷内から現在地に移る。昭和26年に菅原神社を、同31年に藤又神社を分離。

(江)竹橋村。木蠟・綿・蚕繭・菜種・藍。
[註]津幡川のことを小白川ともいい、字津幡の神社・大白山神社(太白山は大の誤記)は川に対する山の名。ミズハノメは水の神。

4. 白山(しらやま)神社(富田) (写真2)

旧村社。伊弉諾命・伊弉冊命(町史は伊弉冉命 いざなみのみこと)・菊理姫命。
明治6年6月村社に列す。境内左に8~9基の五輪塔がある。

(江)富田村。木蠟・綿・菜種・馬脊。

5. 少名彦(すくなひこ)神社(上野)

旧村社。少名彦命・応神天皇・神功皇后・仁徳(にんとく)天皇・武内宿禰(たけのう

ちのすくね).

上野のカリ山に鎮座. 創立年代不詳. 明治6年村社に列す. 境内社殿手前左に五輪塔あり.

(江) 上野村. 木蠟・蚕繭・楮皮・割木・串柿・渋柿・杪(びょう・こずえ).

[註] 少彦名以外は八幡の祭神. 神社誌には八幡を合祀した記載が無い.

[刈安川流域]

6. 笠野神社(刈安)

旧村社. 笠忍(かさおし)姫命.

創立年代不詳. 往古, この里で笠忍姫が近在一郷の菅を刈り, 笠を縫っていたとの伝承がある. もと野々宮神社と称して, 河村郷(かわむらごう)の総社として仰がれた古社であり, 延喜式内社と伝えられるが式内の笠野神社, 野蚊(のか)神社, 野蚊(のづち)神社と古記, 伝承に諸説ある. 6月18日は除蝗祭(麦団子祭)が催されることから野・農の神ということがわかる. 集落からの参道は明治31年に北陸線で断ち切れ, 集落と分断された. 境内入り口に陽石, 五輪塔がある.

(江) 苅安村. 木蠟・綿・蚕繭・串柿・割木・赤柿・渋柿・大麦・小麦.

[註] 野蚊神社・野蚊神社の祭神は鹿屋野比売神(かやのひめのかみ)またの名を野椎神(のづちのかみ)といい, 「つち」は蛇を意味する. 蛇は水神の化身. しかし笠野神社にはそれらの神は祀られていない.

また, 地名の由来である「黄色の染料」に使用するイネ科のカリヤス草に関する特産品も, 江戸期の産物の記録にない.

7. 小原神社(原)

旧村社. 少彦名命(すくなひこなのみこと). 原の飯ノ浦に鎮座. 創立年代不詳. 明治6年

村社に列す. 社殿右手前に俱利伽羅峠三十三観音の1つと五輪塔1基あり. 峰伝いの北陸道からは下り道で, 稼ぎから帰る村人が集落に向かって食事の用意を呼びかけた坂道を「まませ坂」といった.

(江) 原村. 木蠟・綿・蚕繭・串柿・割木・菜種.

8. 八幡(やはた)神社(越中坂)

旧村社. 応神天皇・仲哀天皇・神功皇后(町史には市杵島(いちきしま)姫命も併記) 勧請年月不詳. 明治6年6月村社に列す. 参道は崖崩れのため東側からの仮参道がある. 鳥居右に五輪塔が1基ある.

(江) 越中坂村. 木蠟・油・串柿・蚕繭・渋柿・串柿・割木・杪.

9. 若宮神社(坂戸)

旧村社. 伊弉諾命・伊弉册命・菊理姫命(町史, 河北郡誌には応神天皇・神功皇后・仁徳(にんとく)天皇・武内宿祢も併記) 勧請年月不詳. 明治6年6月村社に列す. 同22年12月26日, 若宮八幡社を若宮神社と改称. 同40年4月16日, 本神社を同字無格社白山社へ合併し村社若宮神社と号す. 明治30年北陸線用地となり移転. 昭和63年バイパス建設のため現在地に再移転.

(江) 坂戸村. 綿・木蠟・蚕繭・串柿・楮皮・割木・杪.

10. 八幡(やはた)神社(河内) (写真3)

旧村社. 応神天皇・仲哀天皇・神功皇后(町史には市杵島姫命も併記) 勧請年月不詳. 明治6年6月村社に列す. この神社鳥居の額には「 神社」とは書かずに「皆會」とある. 社殿右に五輪塔1基と石塔の一部, 社殿左に梵字を刻んだ板碑と石塔の一部, 社殿の床下には連弁を彫った石塔の一部がある.



写真3 八幡神社(10)の梵字を刻した板碑



写真4 手向神社(12)の福井・笏谷石製拝殿(藩主寄進)

(江) 河内村・木蠟・蚕繭・楮皮・串柿・赤柿・渋柿・割木・炭。

11. 白山(しらやま)神社(九折)

旧村社・伊弉諾命・伊弉冊(町史は冉)命・菊理姫命(町史、河北郡誌には健御名方(たけみなかた)命も併記)

勧請年月不詳。明治6年6月村社に列す。同39年11月14日、同字無格社諏訪社(小宮様)を合併。社殿左の大櫓の上に五輪塔1基。明治16年、雨乞いのため番田大池のほとりに戸隠社を勧請。

(江) 九折村・木蠟・綿・蚕繭・楮皮・割木・杪・串柿。

[註] 戸隠神社には、「雨乞い」に効験あらたかな「九頭龍大権現」を祀った「九頭龍社」がある。

12. 手向(たむけ)神社(俱利伽羅)(写真4)

旧郷社・素盞鳴命・神功皇后。

養老二年(718)創立と伝えられる。天保七年(1836)全焼。明治初年、神仏分離で長楽寺から分かれ、素盞鳴社と称す。明治5年、手向社。同6年、郷社に列し、翌7年、現社名に。同41年俱利伽羅の産土神、無格社辻宮八幡社を合併。

(江) 俱利伽羅村・蚕繭・楮皮・割木・柴。

13. 白山社(山森)

旧村社・伊弉諾命・伊弉冉(いざなみ)命。

(町史には菊理媛命も併記)

旧北陸道沿い、赤倉山に鎮座。明治42年、竹橋の俱利伽羅神社に合併されたが、旧社殿を残し、集落がざりて祭祀を行っている。非宗教法人で神社誌に記載は無い。

125段の石段をのぼると、社殿後部に摩滅した板碑らしきもの、摩滅した不動像らしきものがある。

(江) 森村・木蠟・綿・蚕繭・楮皮。

14. (その他) 五社権現(俱利伽羅)

峰御前八幡社・・応神天皇(八幡大菩薩)。愛宕社・・軻遇突智(かぐつち)命(秋葉権現)。

白山社・・菊理媛命(白山権現)。

大峰座主社・・国常立(くにとこたち)尊(蔵王権現)。

108段の石段を登りきると4基の石造社殿がある。もと長楽寺の末社であった。残る一社は長楽寺の末社御影(みえ)社(現在の手向神社で、お堂は現在の和光堂の位置にあった)で計五社。

長楽寺の末社にはその他に、日吉社(猿ヶ馬場の日吉社・大山咋命)。勝手社(堂は失われたが本尊は秀雅堂の前に・天忍穂耳(あ

めのおしほみみ)命). 稲荷社(堂は無く本尊は不動寺に現存・倉稲魂(うかのみたま)命). 辻宮八幡宮(和光堂横に現存・応神天皇). 富士社(北川家から不動寺へ?・木花開耶媛命)

は稲穂・ミミは実を一杯つけていることを意味する.

- ・稲穂の神・農業神.
- ・英彦山(ひこさん)神宮・福岡県田川郡添田町.

祭神の出自と性格

以下にこれまでに挙げた神社の,祭神の出自と性格について分析する.50音順に示し,祭神を同じくする全国の有名神社も記した.

なお,祭神は以下の4つに区分される.

- 天神(あまつかみ)族・・高天原(たかまがはら)系の神
- 地祇(くにつかみ)族・・出雲系の神
- 天孫(てんそん)族・・神武天皇以後の系統
- 人物神・・上記以外の歴史上の偉人等

1.天照皇大御神(あまてらすすめおおみかみ)

竹橋・倶利伽羅神社

天神族・・父・イザナギ.皇室の祖先とされている.イザナギが黄泉(よみ)の国から帰り,筑紫の日向(ひむか)の橘之小門(たちばなのおと)の安波岐原(あわぎはら)で禊(みそぎ)をした際,左目を洗った時,光とともに生まれた美しい女神.高天原の支配者.別称・天照大御神.

- ・太陽の神・養蚕・織物の神.国家安泰・産業反映の神.
- ・三重県伊勢市・伊勢神宮・内宮

2.天忍穗耳命(あめのおしほみのみこと)

倶利伽羅・勝手社(お堂無し)

天神族・・アマテラスの長子.別称・正哉吾勝勝速日(まさかあかつかつはやひ)天之忍穗耳命.妻はタカミムスビ神の娘で織物の神である栲幡千々(たくはたちぢ)姫命.子は神武天皇の曾祖父・ニニギ尊.ホ

3.伊弉諾命(いざなぎのみこと)

竹橋・倶利伽羅神社

富田・白山神社

坂戸・若宮神社

九折・白山神社

山森・白山社

天神族・・日本神話の初めに登場する別天神(ことあまつかみ)から数えて七代目に出現した夫婦神の男神.妻のイザナミと共に日本の国を生んだ.

- ・夫婦ともに国家安泰・子孫繁栄・五穀豊穰・家内安全の神.
- ・兵庫県淡路島の一宮町・伊弉諾神社.

4.伊弉册(冉)命(いざなみのみこと)

富田・白山神社

坂戸・若宮神社

九折・白山神社

山森・白山社

天神族・・夫・イザナミと共に数多くの神々を産んだが,最後に火の神「迦具土・軻遇突智かぐつち」を産んで陰部を火傷し死に,黄泉の国へ下る.

- ・イザナギ・イザナミを祀る神社 滋賀県多賀町・多賀大社.

5.市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)

越中坂・八幡神社

河内・八幡神社

天神族・・父・スサノオ.奥津島姫命・多岐津島姫命と共に宗像三神と呼ばれる美人姉妹.中でもイチキシマヒメは一番の美人で弁天様にもたとえられる.広島の厳島神

社は市杵島の転成・大市姫などととも市場・交易の神「市姫神社」の祭神として祀られることが多い。越中坂・坂戸では、俱利伽羅峠の上り口の神としての性格か？比咩神として八幡系に祀られることもある。

- ・陸上交通・海上交通安全の神・漁業・運輸・五穀豊穰。
- ・広島県佐伯郡宮島町・巖島神社・神奈川県藤沢市・江ノ島神社・滋賀県東浅井郡びわ町・都久夫須麻神社。

6. 倉稻魂命(うかのみたまのかみ)

俱利伽羅・稲荷社(お堂なし・不動寺内)

地祇族・「古事記」では父・スサノオ・母・オオイチヒメ。「日本書紀」では父・イザナギ・母・イザナミ。別称・宇迦之御魂(うかのみたま)神・稲荷神。宇迦は食(うけ)と同じ意味で、食物を指す。渡来系の秦氏の神。「稲成り」が「稲荷」に。全国の稲荷神社は3万2千社。名もない小社まで含めると4万とも5万ともいわれている。狐は稲荷の神の使い。

- ・五穀豊穰・諸産業繁栄の神。
- ・日本三大稲荷 京都府伏見区・伏見稲荷大社・茨城県笠間市・笠間稲荷神社(又は愛知県豊川市・豊川稲荷)・佐賀県鹿島市・祐徳稲荷神社。

7. 応神天皇(おうじんてんのう)

東荒屋・八幡神社

上野・少名彦神社

越中坂・八幡神社

坂戸・若宮神社

河内・八幡神社

俱利伽羅・辻宮八幡宮(和光堂横)・五社権現(峰御前八幡社)

天孫族・ヤマトタケルの息子である第14代仲哀天皇と神功皇后の子。別称・譽田別命・品陀和気命。第15代天皇になる。百濟・

新羅から多数の学者や技術者を招いた。神功皇后と(時には武内宿禰・仲哀天皇とも、まれには仁徳天皇も)一緒に全国2万5千社の八幡神社の祭神。稲荷について2番目に多い。鳩は八幡の神の使い。

- ・文武の神・交通安全・開拓・航海の神。
- ・大分県宇佐市・宇佐八幡宮。京都府八幡市・石清水八幡宮。神奈川県鎌倉市・鶴岡八幡宮。

8. 大山咋神(おおやまくいのかみ)

東荒屋・八幡神社

俱利伽羅(猿ケ馬場)・日吉社

地祇族・別称・山末之大主神(やますえのおおぬしのかみ)といい、山裾の神。「山王さん」と呼ばれている。父・大年神。母・天知迦流美豆比売神(あめしるかるみずひめのみこと)。妻は建玉依比売(たけたまよりひめ)命といい、京都の賀茂御祖(みおや)神社(下鴨神社)の祭神である賀茂建角身(かもたけつぬみ)命の娘。子は賀茂別雷(かもわけいかづち)命といい、賀茂別雷神社(上賀茂神社)の祭神となった。「古事記」に「大山咋神は日枝山(ひえのやま)に坐(い)ます」とある。日枝の山は比叡山のこと。日枝は日吉とも書く。猿は日吉の神の使い。

- ・土木建築・酒造の神。
- ・東京都千代田区・日枝神社。滋賀県大津市・日吉大社。京都府西京久嵐山宮町・松尾大社。

9. 軻遇突智命(かぐつちのみこと)

俱利伽羅・五社権現(愛宕社)

天神族・イザナギ・イザナミ夫婦の間で最後に産まれたのが「火の神」カグツチである。イザナミは陰部を火傷し、苦しさをあまり吐いた「へど」から生まれたのが、金山毘古神と金山毘売神。へどが溶鉄に似て

いるので二神は鉄を司る神。次に大便からは波邇夜須毘古（はにやすびこ）神と波邇夜須毘売神，尿からは禰都波能売（みずはのめ）神と和久産巢日（わくむすび）神が生まれた。この糞尿の神は，肥料として再生産に結びつく神。妻を死なせたカグツチを，父のイザナギは剣で首を切る。その血からまた数々の神が生まれる。ハニヤスは埴安となり粘土を意味し，各地の陶磁器山地の神として祀られる。23 ハニヤマヒメ参照。

「日本書紀」一書（あるふみ）の二の記述では，カグツチとハニヤマヒメがその後，結婚して生んだワクムスビ神の頭に蚕と桑が生じ，臍（へそ）に五穀が生じたとある。
・鎮火・火防の神。鋳業・製鉄・陶磁器の神。
・静岡県周知郡春野町・秋葉神社。滋賀県甲賀郡信楽町・陶器神社。京都市右京区嵯峨愛宕町・愛宕神社。

10. 笠忍姫命（かさおしひめのみこと）

刈安・笠野神社

人物神。・詳細不詳。「日本の神仏の辞典」にも笠忍姫の記述はない。「河北郡誌」の記述に「傳へいふ，往古此里に笠忍姫命といへるありて，常に一郷の菅を苜り笠を縫ひ給へりと。其菅を苜りしといふ池今尚數ヶ所に存す。當社前の池も又其繁茂せるを見る。」とある。「忍（おし）」は能（よ）くするを意味し，上手にすることということ。彼女は，どこかで習い覚えた笠作りの技術を村人に，近くに沢山生えている菅を利用して作ることを教え広めた恩人かもしれない。

11. 菊理比賣命（くくりひめのみこと）

竹橋・俱利伽羅神社

菊理姫命

富田・白山神社 坂戸・若宮神社

九折・白山神社

菊理媛命

山森・白山社

俱利伽羅・五社権現（白山社）

地祇族・・白山比咩神のこと。全国3千社を超える白山神社があるが「古事記」には全く登場せず，「日本書紀」に1箇所だけ登場する女神。古代東北アジアのシャーマン（巫女みこ）の系統の説が有力。「くくる」は「水くくる」で「襖（みそぎ）」の意。死霊の宣託を語ったイタコのごとき女神。古代アジアのツングース系民族の「白山部」という支族のなかで生まれた「白頭山，太白山」進行が日本海を渡ったなどの説がある。

イザナギ・イザナミ・ククリヒメの三神が白山の祭神。

- ・五穀豊穰・生産繁盛・開運招福。
- ・鶴来町・白山比咩神社。

12. 国常立尊（くにとこたちのみこと）

俱利伽羅・五社権現（大峰座主社）

天孫族・・日本神話最初の神は天之御中主（あめのみなかぬし）神。アメノミナカヌシら五神を「別天神（ことあまつかみ）」といい，そのあとイザナギ・イザナミまでの七世を「天神七世（あまつかみななよ）」または「神代七世」という。クニトコタチはその一代目。万物の生命活動の源泉に位置する。

宇宙の根源。

- ・国土安穩・悪霊退散・厄除け。
- ・長野県木曾郡王滝村・御嶽神社。和歌山県新宮市・熊野速玉大社。

13. 闇?神（くらおかみのかみ）

貴船神社・七野

天神族・・父はイザナギ。イザナギが妻のイザナミの死因をなしたカグツチの首を切った折，剣を握った手指のあいだから洩

れた血から生まれた。「クラ」は「谷」を意味し、「オカミ」は水の神、または雨雪を司る神で「龍神」とされている。水の調節を図り、豊葦原の瑞穂の国の穀物を豊かに実らせる神。

- ・雨乞い・止雨・灌漑・養蚕の神。
- ・京都市鞍馬・貴船神社。

14. 木花開耶姫命(このはなさくやひめのみこと)

竹橋・俱利伽羅神社

俱利伽羅・富士社(北川家から不動寺へ?)

天神族・・別称・吾田鹿葦津姫(あたかあしつひめ)命。大山を司る大山津身(おおやまつみ・大山祇とも書く)神の末娘。瓊々杵(くにぎ)尊と結婚。海幸彦・山幸彦らを産む。神武天皇の曾祖母。山に例えると「富士山」、花に例えると「桜」というほどの美人。

- ・酒造・山火鎮火・五穀豊穰・養蚕・良縁・安産の神。
- ・静岡県富士宮市・浅間神社。 鹿児島県霧島町・霧島神社。

15. 神功皇后(じんぐうこうごう)

東荒屋・八幡神社

上野・少名彦神社

越中坂・八幡神社

坂戸・若宮神社

河内・八幡神社

俱利伽羅・手向神社

地祇族・・別称・息長帯姫(おきながたらしひめ)命・氣長足姫尊。7- 応神天皇の母。夫の20仲哀天皇とクマソを征伐に向かう。夫は敵の矢で死亡。夫に代わりクマソを征伐。余勢を駆って朝鮮の新羅も征伐。凱旋後に生まれたのが応神天皇。神仏習合時代には「聖母大菩薩」と尊称された。聖母

を祀った神社は九州地方に多い。聖母宮、聖母八幡宮と称す。地元では「しょうも」とか「しょも」とか呼んでいる。この地方にキリスト教がいち早く広まった一因かもしれない。

- ・子授け・縁結び・安産・商売繁盛・厄除けの神。
- ・鎌倉市・鶴岡八幡宮・敦賀市・気比神宮。

16. 少名彦命(すくなひこのみこと)

上野・少名彦神社

少彦名命(すくなひこののみこと)

原・小原神社

天神族・・父・神産靈日(かみむすび)神。オオクニヌシと二人で国造りに励んだ小さな神。「アメノカガミブネ」に乗って光輝きながら現れた。オオクニヌシが病気になったとき、温泉の湯を運び入浴させ、治癒した。この温泉は道後温泉とも別府温泉とも言われている。温泉地にはこの神を祭ることが多い。

- ・温泉・医薬・国土開発の神。
- ・横浜市緑区・医薬神社。大阪市東区道修町・少彦名神社。

17. 素盞鳴命(すさのおのみこと)

俱利伽羅・手向神社・素盞鳴社(不動寺)

地祇族・・イザナミが黄泉の国から帰り、ミソギをしたとき、鼻から生まれた。乱暴がすぎたので、アマテラスが天岩戸に隠れてしまい、高天原から追放された荒ぶる神。出雲の降臨。ヤマトノオロチを退治した英雄。

- ・農神・疫病送りの神。
- ・名古屋市・熱田神宮。京都市東山区・八坂神社。

18. 武内宿禰(たけのうちのすくね)

上野・少名彦神社

坂戸・若宮神社

地祇族・父・第8代孝元天皇の子，比古布都押之信（ひこふつおしのまこと）命・母・山下影日売（やましたかげのひめ）.第12代景行天皇から成務，仲哀，応神，仁徳まで240年，5代の天皇に仕え，三百六十余歳の長寿を保った．

- ・延命長寿・武運長久・立身出世・勝負必勝の神．
- ・埼玉県日高市・高麗（こま）神社．敦賀市・気比神宮

19．健御名方命（たけみなかたのみこと）

九折・白山神社

地祇族・諷訪神社の祭神．父・オオクニヌシ．母・ヌナカワヒメ．高天原から降ってきたタケミカヅチに国譲りを断り，力較べに負け，科野（信濃）の洲羽（諷訪）まで追い詰められた神．ミナカタ（水滂）は，追い詰められた諷訪湖を意味すると思われる．

- ・狩猟・農耕神．軍神・五穀豊穡の神．
- ・長野県諷訪市・諷訪大社．全国の諷訪神社の総本社．

20．仲哀天皇（ちゅうあいてんのう）

東荒屋・八幡神社

越中坂・八幡神社

河内・八幡神社

天孫族・ヤマトタケルの子．12神功皇后の夫．7- 応神天皇の父．父の墓の堀に浮かべるため白鳥を全国から集めた．越の国から四隻（八羽）献上．八幡神社の祭神．

21．天満大神（てんまのおおかみ）

竹橋・俱利伽羅神社

人物神・菅原道真のこと．菅原是善の三男．政敵の讒言により太宰府に流され，その地で没した菅原道真を神とする．彼の死後，朝廷に不幸が続き，落雷や早魃などの

天災が続いた．これは道真の怨霊が雷神となったためと考え，天神の信仰が生まれた．学問の神．また前田家は菅原家を先祖と称したので，特に天満宮を大切にした．道真公は丑年に生まれ，丑年に死んだとされ，神社境内に牛の像を置いた天満宮が多い．

- ・学問の神．
- ・京都市上京区馬喰町・北野天満宮．福岡県太宰府市・大宰府天満宮．

22．仁徳天皇（にんとくてんのう）

上野・少名彦神社

坂戸・若宮神社

天孫族・7- 応神天皇の子．別称・大鷦鷯（おおささぎ）命．人民の税負担を軽減した天皇といわれている．父・祖母15神功皇后と共に八幡神社の祭神として祀られることがある．鷦鷯は「かささぎ」とも読む．津幡町の神社では，オオササギとして中橋・八幡神社．他に横浜・野田八幡神社の2社．

23．埴山比咩命（はにやまひめのみこと）

竹橋・俱利伽羅神社

天神族・9- カグツチで記したように「古事記」では波瀾夜須毘売神「日本書紀」では埴山比咩命と表記されている．父・イザナギ．母・イザナミ．イザナミが火傷で苦しんでいるとき尿（し・糞）から生まれた神．埴は赤土の粘土を表す．土器は神聖な祭器であり，生活の道具として大変貴重なもの．古老の話では竹橋農村公園の辺りで，昔，瓦を焼いていたとか．

- ・農業・陶磁器製造業・造園業・土木関係の神．安産守護の神．
- ・群馬県群馬郡榛名町・榛名神社．京都市右京区嵯峨愛宕町・愛宕神社．

9- . 火結命 (ほのむすびのみこと)

竹橋・俱利伽羅神社

・9- カグツチの別称 .

7- . 磐田別命 (ほんだわけのみこと)

竹橋・俱利伽羅神社

・7- 応神天皇の別称 .

24. 罔象女神 (みずはのめのかみ)

七野・貴船神社

竹橋・俱利伽羅神社

天神族・罔象女神は「日本書紀」の表示 . 「古事記」では彌都波能売神 . ミズハは「水が這う」「水が走る」を意味し、蛇の様に川が流れ下るさまをイメージしたもの .9- カグツチで記したように、イザナミの尿から生れた . 化学肥料の無かった時代、糞尿は農業には欠かせない重要な肥料でもあった . 稲作の神であるとともに、民俗信仰の井戸神 (水神さま) ともなり、食事の用意や洗濯の場となる井戸端は、女性の集まる場でもあり、子供を伴う母神ともなっていた . 地方によっては子授け・安産の神として信仰される . また、紙漉きにも水は不可欠であった .

・祈雨・止雨・治水の神 . 商売繁盛・子宝・安産の神 . 製紙の神 .

・福井県今立郡今立町・岡太神社 . 奈良県吉野郡川上村・丹生川上神社中社 .

俱利伽羅谷には、以上24種の神々が祀られている .

おわりに

俱利伽羅谷に特徴的な祭神

津幡町内にある78の神社の祭神で、俱利伽羅谷にしか祀られていない特徴的な神は、2天忍穂耳命 (あめのおしほみのみこと)、10 笠忍

姫命 (かさおしひめのみこと)、12 国常立尊 (くにとこたちのみこと)、13 闇?神 (くらおかみのかみ)、24 罔象女神 (みずはのめのかみ) の五柱である .

2は農業神、10は村人に技術を教え感謝された女神、12は宇宙の根源の神、13・24は水・農業の神 .

水神について

古代、稲作は水の管理が容易な山間部から始まり、灌漑用水の発達とともに山から下りてきた . 河北潟周辺にまで稲田が進出するには年月を要した . 当然、山間部の集落は古くから存在した . 上流にのみ水神が見られることは当然である .

「小白社」

竹橋・俱利伽羅神社の古名「小白社」は津幡川の別名「小白川」の名の起源と考えてもよいと思う . 河合家所蔵の「津幡八景」を拡大したカラー写真が町役場隣、福祉センターホールの壁に掲げられているが、津幡川の場所に「小白川」の付箋がつけられている .

津幡・太白山神社にある古い棟札には「太白山神社」とあり、古くは「」の無い「大」であった . 「小白川」に対する「太白山」.(津幡ではオオシロヤマをシロノヤマと呼んでいた.) 明治期まで河北潟から竹橋まで荷物を載せた船が行き来した .

五輪塔の謎

菽坂谷の神社には少なかったが、俱利伽羅谷には多くの石造物を見ることができる . 五輪塔などの石造物が無いのは、竹橋・俱利伽羅神社と近年の移転で新築された坂戸・若宮神社だけである . 河内の神社には梵字を彫った「板碑」がある . 社殿左の縁の下には石塔の一部 (全く同じ物が南横根・白山神社の縁の下にもある) が置いてあるし、社殿右のケヤキの下、手水鉢

の横にもある。

蓮如がこの地方に浄土真宗を広める以前、この地方の宗教は真言、天台などの密教が多かった。そのことは白山神社が多数存在することから明らかである。

真宗で墓石に五輪塔を使用することは少ない。板碑もそうである。

明治期の神仏分離の際、神社境内にそれらを集め整理した。

神道には教義はない。あるとすれば「清浄」と神に対する「畏れ」。ただひたすらに「清く」である。「穢れ」は「禊(みそぎ)」で洗い流す。

墓石を「穢れ」とするならば、何故それらを「清浄」の地に置いたのであろうか。

尊崇

どの神社も綺麗に清掃され、地区民が産土の神を尊崇している様子が伺われる。

引用文献

- 「新版 古語辞典」 角川書店
 「古語名言・由来・ことわざ総解説」 三浦一郎
 他 自由国民社 昭和60(1985)
 「石川県神社誌」 石川県神社庁発行 昭和51
 (1976)
 「津幡町史」 津幡町史編さん委員会 昭和49
 (1974)
 「石川県の地名」 平凡社 平成13(2001)
 「石川県の歴史」 山川出版社 昭和45(1970)
 「加賀能登の合戦」 北国出版社 昭和56(1981)
 「石川縣河北郡誌」 石川縣河北郡役所発行 大
 正9(1921)
 「日本の神々の事典」 学習研究社 平成9
 (1997)
 「神道の本」 学習研究社 平成4(1992)

(付記) 俱利伽羅地区を歩いていった人々

大伴家持(718? ~ 785)

天平十八年(746)8月越中の国主として赴任し、杉の瀬から仮生を通り、下中の南を経て、南黒坂から越中へ向かった。5年の任期を終え、天平勝宝三年(751)7月、帰任の際も通っている。

木曾(源)義仲(1154 ~ 1184)

寿永二年(1183)5月11日深夜、砺波山の合戦が行われた。「火牛の計」は源平盛衰記にのみ書かれており、平家物語にその記述はない。

源義経(1159 ~ 1189)

「須々神社縁起」では宮腰(金石)から海路珠洲へ。能「安宅」では金沢市鳴和を通っている。その後通ったかもしれない。「義経記」では剣(つるぎ)の権現で御通夜をした義経一行と別れ、弁慶は富樫の館を一人で訪ねる。大野の湊で合流した一行は、その日竹の橋に泊まり、あくる日俱利伽羅山を越え、平家の人々に阿弥陀経を読み、菩提を弔った。

冷泉為広

延徳三年(1491)3月、前室町管領、細川政元・冷泉為広一行は、浅野・柳橋・森本・太田・竹橋を通り俱利伽羅を越え、越中へ向かった。大永六年(1526)七尾にて没。

上杉謙信(1530 ~ 1578)

天正四年(1576)10月、七尾城を攻めるため俱利伽羅峠を越え、津幡城へ入った。10月17日津幡城を發し、七尾城を攻めるが抵抗が激しく撤収。翌年7月、七尾城落城。9月信長軍と手取川で戦い、これを破り越後へ帰還。この勝利は上杉方の記録にあるが、織田方の記録には無い。

豊臣秀吉 (1536 ~ 1598)

天正十三年(1585)7月17日の秀吉書状に「来る四日越中表まで出馬の儀」を利家命じ、長連龍らに津幡到着を命じている。呉羽山に陣を敷いた秀吉に、佐々成政は戦わずに降伏。大坂との往復ともに通っていると思われる。

松雄芭蕉 (1644 ~ 1694)・曾良

元禄二年(1689)7月15日(今の8月29日)「奥の細道」紀行の師弟は、高岡を出立し、埴生八幡を拝し、俱利伽羅峠を越えた。その夕べ、金沢小橋の京屋吉兵衛に宿をとった。

十辺舎一九 (1765 ~ 1831)

「東海道中膝栗毛」の姉妹編として「方言修行 金草鞋(むだしゅぎょう かねのわらじ)」を書いた。主人公は「鼻毛の延高(はなげののびたか)」と僧の「千久良坊(ちくらぼう)」の二

人。石動から俱利伽羅を経由して金沢へ。

明治天皇 (1852 ~ 1912)

明治11年10月1日(晴)石動を後は御発輦され、天田峠を越え、竹橋を経て津幡弘願寺へ。随員は右大臣、岩倉具視・参議兼大蔵卿、大隈重信・宮内大書記官、山岡鉄太郎(鉄舟)達であった。

パーシバル・ローエル (1855 ~ 1916)

数学的計算により冥王星を予知発見したアメリカの天文学者。火星の研究により、天文学に不滅の業績を残した。明治22年(1889)五月能登へ。往路は富山から荒山峠を越え穴水へ。帰途は津幡を通り俱利伽羅を越え、長野経由、浜松へ。彼の旅行記は「NOTO」と題してアメリカで刊行された。